

## 「リスク・マネジメント」について

国府小学校長 桐谷 一夫

日本の社会に「リスク・マネジメント【risk management】」の思想が広がって久しくなります。この言葉が日本に入ってきて本格的に広がったのは、阪神淡路の震災(1995年)の後です。ビジネス用語として入ってきた言葉が、またたくまに各方面へ広がり、起こりうる危険を想定することは、当然行わなければならない社会になりました。科学技術の進歩もありますが、かつては「神のみぞ知る」ことの範疇であった地震や噴火、雪崩や洪水等の天変地異でさえ「想定内」に収めることをあたりまえに要求される社会です。

「リスク・マネジメント」の思想が、安全管理意識を高めることに結びついたことは大変良いことだと思いますが、一方で万一の事故等が起きた場合、自分以外の誰かやどこかに責任を押しつけあう風潮が加速度的に進んだように感じるのは、私だけでしょうか？日本人は昔から自然の恵みに感謝するとともに、自然の力に対して畏怖の念を持ちながら生活してきました。その中で、自然の前では無力な人間達が、お互いに協力したり扶助しあったりすることが「あたりまえ」の社会を形成してきたのだと思います。「リスク・マネジメント」の思想が生まれたアメリカは、基本的に契約社会です。契約が全てであり、訴訟や裁判も契約をもとにして行われます。インターネットの利用約款や、医薬品の説明書きが大変長文になっているのは、契約社会が国際標準になってきているからです。現代社会に生きる私たちは、その流れから脱することはできませんが、日本に古くからあった自然に対する思いや、人と人との温かい絆の大切さまで失われてはならないと思っています。

さて、学校は、子どもたちが伸び伸びと学び、活動する場でなければなりません。子どもたちはその生活の中で、必ずたくさん失敗をします。計算を間違えたり、漢字を間違えたり、友達と喧嘩したり、約束を守れずに叱られたり……。子どもは失敗する存在だからこそ、学校へ来て学ばなければならないのです。失敗を恐れていては成長できません。大切なのは、失敗から学び、同じ失敗を繰り返さないようにすることです。それが「学習する」ということです。一方で、絶対にしてはならない失敗もあります。それは命に関わる失敗です。命に関わる失敗は、取り返しがつかないからです。国府小学校の子どもたちには、機会があるごとに「学校ではたくさん間違えたり失敗したりして、賢い子になりましょう。でもただ一つ、絶対にしてはならない失敗があります。それは命に関わる失敗です。」と語っています。それは、学校職員の意識も同じです。自他の命に関わる危険な行動に対しては、真剣に叱ることを大切にしています。学校は「失敗を許容し、失敗を通して学べる場でなければならない。しかし命に関わる失敗は絶対に許してはならない」という背反性を持つ点が、一般企業等とは異なる特殊性だと思います。

いよいよ夏休み。7月21日～8月27日の間、子どもたちは家庭や地域で過ごすこととなります。学校ではできない貴重な体験や学びをしてほしいと願っています。安全についての見守りも、よろしくお願いします。

## リスク・マネジメント【risk management】

出典:ナビゲート ビジネス基本用語集

危機管理のこと。将来起こりうるリスクを想定し、リスクが起こった場合の損害を最小限に食い止めるための対応をいう。これには事前にリスクを回避するための措置と、起こった場合の補償等による対応という2つの側面がある。もともとアメリカで保険の理論として展開されたのが始まり。日本の企業においても、経営活動の多様化、国際化などによりその必要性が高まっている。

